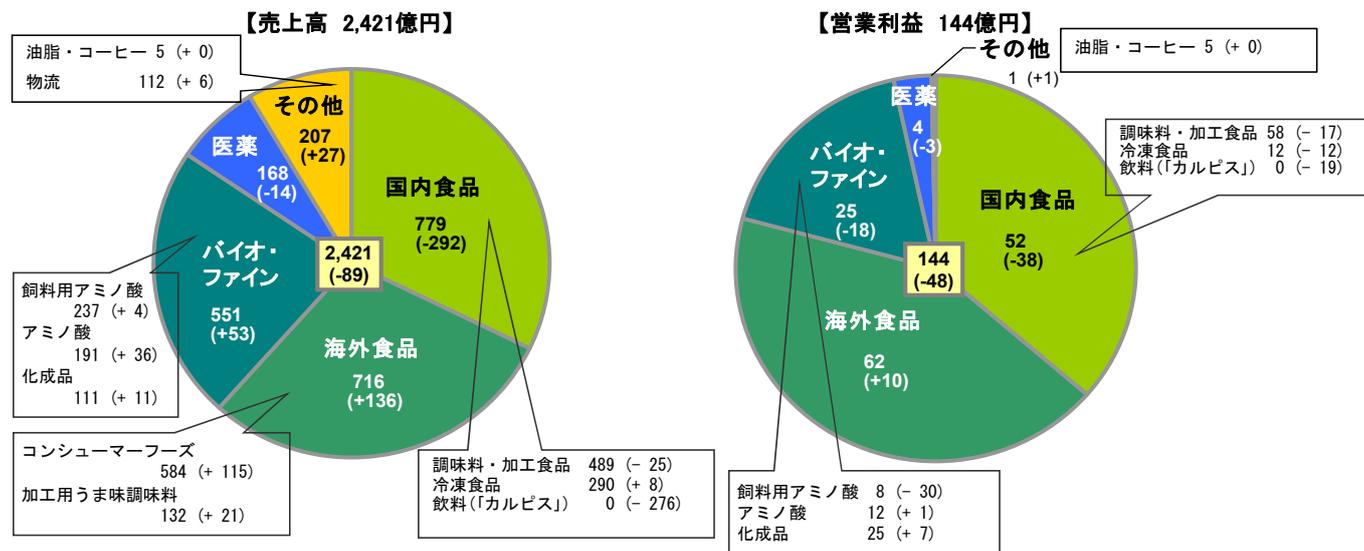


味の素株式会社 2014年3月期第1四半期 参考データ

1. 売上高・営業利益 事業区分別構成 (2013年4月～2013年6月)

(億円、( )内対前年増減)



2. 事業区分と製品区分

事業区分	内訳	主要製品
国内食品	調味料・加工食品	【家庭用】「味の素」、「ほんだし」、「Cook Do」、「クノールカップスープ」、「味の素KKコンソメ」、「ピュアセレクト マヨネーズ」、ギフト各種 【業務用】外食用調味料・加工食品、加工用調味料(天然系調味料、酵素製剤「アクティバ」) ※加工用調味料の海外分は、国内食品セグメントに含まれます。)、弁当・惣菜、ベーカリー製品
	冷凍食品	「ギョーザ」、「やわらか若鶏から揚げ」、「エビシューマイ」、「エビ寄せフライ」、「エビピラフ」、「洋食亭ハンバーグ」、「AMOY(海外販売分)
	飲料(「カルピス」)*1	カルピス(株)製品(「カルピス」、「カルピスウォーター」、「アミールS」)
海外食品	コンシューマーフーズ	家庭用・外食用「味の素」(各国)、「Ros Dee」(タイ/風味調味料)、「Masako」(インドネシア/風味調味料)、「Aji-ngon」(ベトナム/風味調味料)、「Sazon」(ブラジル/混合調味料)、「AMOY」(中華系液体調味料)、「YumYum」(タイ/即席麺)、「Birdy」(タイ/コーヒー飲料)
	加工用うま味調味料	食品加工業向け「味の素」、核酸系調味料 ※加工用うま味調味料の日本国内売上分は海外食品セグメントに含まれます。
バイオ・ファイン	飼料用アミノ酸	飼料用リジン、飼料用スレオニン、飼料用トリプトファン
	アミノ酸	【医薬用・食品用アミノ酸】アルギニン、グルタミン、バリン(輸液用途・飲料用途等) 【甘味料】アスパルテーム、「パルスweet」 【製薬カスタムサービス】*2 抗癌剤、自己免疫疾患、エイズ薬、ジェネリック原薬、植物抽出品等
	化成品	【化粧品原料】「アミノソフト」(マイルド洗浄剤) 【化粧品】「Jino」 【電子材料】「ABF」(プリント配線板用層間絶縁フィルム)
医薬	医薬品	【医薬品】臨床栄養(「ソリター-T」、「ピーエヌツイン」、消化器疾患(「リーバクト」、「エレンタール」、代謝性疾患 他(「アテレック」、「ファスティック」、「アクトネル」)
その他	—	【健康ケア】健康基盤食品(「グリナ」カプシエイト)、機能性栄養食品(「アミノバイタル」、医療用食品(「メディエフ」、「インパクト」) 【その他】物流、油脂・コーヒー*3、各種サービス他

\*1 2012年10月1日に当社の保有するカルピス社の全株式をアサヒグループホールディングス株式会社へ譲渡致しました。  
\*2 製薬カスタムサービス事業(旧:医薬中間体):製薬企業を顧客として、医薬中間体・原薬の製造サービスおよび開発サービスを提供する事業です。2013年度第1四半期より味の素アルテア社の業績が当該事業に反映されます。  
\*3 総発売元取引である油脂・コーヒーについては、2013年度より売上高と売上原価を相殺して純額にて売上高を計上する方法に変更するとともに、事業区分を「提携事業」から「その他」へ変更しております。

3. 国内食品

(1) 主要製品 家庭用市場シェア(当社推定)\*

製品領域	ブランド	2011年度		2012年度		2013年度 市場規模予想 (億円)
		市場規模 (億円)	当社シェア(順位) **	市場規模 (億円)	当社シェア(順位) **	
うま味調味料	「味の素」「ハイミー」	78	80%(1位)	72	91%(1位)	69
和風だしの素	「ほんだし」	417	44%(1位)	401	45%(1位)	389
コンソメ	「味の素KKコンソメ」	130	66%(1位)	128	67%(1位)	131
スープ	「クノール」	855	39%(1位)	835	38%(1位)	850
マヨネーズ類	「ピュアセレクト」	432	26%(2位)	439	26%(2位)	439
中華調味料	「Cook Do」	340	37%(1位)	345	39%(1位)	348

\* 消費者購入価格ベース

\*\* 当社シェア(順位)については、データの対象範囲を「主に2人以上一般世帯の男女個人および単身者」としております

(2) 国内食品家庭用/業務用比率 (単位:億円)

調味料・加工食品*1	売上高	2011年度	2012/4-6	2012年度	2013/4-6
		家庭用*2	58%	56%	59%
業務用*3	42%	44%	41%	46%	
冷凍食品	国内向け売上高	1,029	260	1,044	260
	家庭用	62%	64%	63%	64%
	業務用	38%	36%	37%	36%

\*1 総発売元取引の「ケロッグ」製品について、過去数値を純額表示へ組替しております

\*2 家庭用:家庭用調味料・加工食品、ギフト \*3 業務用:業務用調味料・加工食品、加工用調味料、弁当・惣菜、ベーカリー

4. 海外食品

MSG、核酸系調味料 当社推定市場規模

	2011年度				2012年度			
	中国	その他	計	当社シェア	中国	その他	計	当社シェア
MSG(千ト)	1,460	1,340	2,800 *1	約20%	1,550	1,380	2,930 *2	約20%
核酸系調味料(千ト)	-	-	31	約35%	-	-	34	約35%

\*1 家庭用:60%弱、加工食品メーカー向け:40%強 \*2 家庭用:60%弱、加工食品メーカー向け:40%強

5. バイオ・ファイン

(1) 飼料用アミノ酸 市況及び当社推定市場規模

	2010年度	2011年度	2012/4-6	2012年度	2013/4-6	2013/4-9 予想**	2013年度 予想**
スプレッド(USドル/ST)*	140	95	190	190	195	215前後	200前後
市場価格 (USドル/kg)	リジン 2.00	2.35	2.30	2.15	1.75	1.70前後	1.95前後
CIFベース)	スレオニン 2.55	2.45	2.20	2.30	2.20	2.20前後	2.25前後
	トリプトファン 23	15	11	17	16	16前後	20前後
市場規模 (千ト)	リジン 1,580	1,700	/	1,950	/	2,100前後	2,000前後
	当社シェア 20%前後	20%前後	/	20%前後	/	20%前後	20%前後
	スレオニン 245	270	/	330	/	380前後	380前後
	当社シェア 35%前後	30%前後	/	30%前後	/	30%前後	30%前後
	トリプトファン 4.8	6.0	/	9.0	/	14.0前後	14.0前後
	当社シェア 55%前後	40%前後	/	45%前後	/	30%前後	30%前後

\* スプレッドはシカゴ商品取引所(CBOT)の大豆粕とトウモロコシの価格差

\*\* スプレッドおよび市場価格は弊社業績予想の前提とは一致しません

(2) アミノ酸系甘味料アスパルテーム 当社推定市場規模

	2011年度		2012年度		2013年度予想	
	市場規模	当社シェア	市場規模	当社シェア	市場規模	当社シェア
アスパルテーム(千ト)	24.5前後	30-35%	24.5前後	30%前後	25.0前後	30%前後

6. 医薬

(1) 当社グループ製造承認取得製剤 薬価売上(味の素製薬株推定)

(単位:億円)

領域	製剤	発売年月	効能または分類	販売者	2012年度	2013/4-6	前年比
臨床栄養、 消化器疾患	「リーバクト」	1996年 5月	肝疾患用分岐鎖アミノ酸製剤	味の素製薬株	149	38	96%
	「エレンタール」	1981年 9月	成分栄養剤	味の素製薬株	77	19	99%
	「カーホスター」	2007年 6月	人工腎臓用透析剤	味の素製薬株	64	16	99%
	「ソリター-T」	1962年 4月	電解質輸液	味の素製薬株	39	10	99%
	「ヘパリン製剤」	1972年 4月	血液凝固阻止剤	味の素製薬株	24	6	106%
	「ニフレック」	1992年 6月	経口腸管洗浄剤	味の素製薬株	23	6	109%
	「ヒューズツイン」	1993年12月	高カロリー輸液用糖・電解質・アミノ酸液	味の素製薬株	16	4	88%
	「ローヘパ」	1996年11月	血液凝固阻止剤	味の素製薬株	15	3	91%
	「ツインバル」	2004年 9月	糖・電解質・アミノ酸末梢輸液	味の素製薬株	12	3	91%
代謝性疾患 他	「ヘパソED」	1991年 9月	肝不全用成分栄養剤	味の素製薬株	9	2	92%
	「アテック」	1995年12月	持続性カルシウム拮抗降圧剤	持田製薬株	151	38	97%
	「アトネル」	2002年 5月	骨粗鬆症治療剤	エーザイ(株)	117	26	84%
	「ファスティック」	1999年 8月	速効型食後血糖降下剤	持田製薬株	24	5	70%

<参考> 薬価改定の影響:2012年4月-約6%

## (2) 開発パイプライン

2013年7月

領域	名称	開発状況	適応	備考
消化器疾患	AJG511	Phase II	潰瘍性大腸炎	導入品 (Dr. Falk Pharma社)
	AJM300	Phase II	潰瘍性大腸炎	
代謝性疾患	AJH801	申請中	高血圧症	
	「ファステック」	Phase III	2型糖尿病	DPP-4阻害剤との併用

## (3) 最近発売の新製品 (2012年7月以降)

2013年7月

領域	名称	発売年月	効能又は分類	備考
代謝性疾患	「アクトネル」	2013年2月	骨粗鬆症	剤形追加 / 月1回投与製剤
消化器疾患	「モビブレップ」	2013年6月	大腸内視鏡検査、及び大腸手術時の前処置	
	「リーバクト」	2013年7月	肝硬変	剤形追加/経口ゼリー剤

※本資料には、当社推定に基づく見通しの値が含まれております。  
 経済状況や為替環境等の影響により、実績の値は見通しとは異なる可能性があります。  
 本資料の値は四捨五入で表示しております。